

第3期中期目標期間における熊本大学の機能強化構想

「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学 ～「創造する森 挑戦する炎」～



第3期中期目標期間における熊本大学のビジョンと戦略

【VISION】「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学 ～「創造する森 挑戦する炎」～

熊本大学は、地域とともに成長・発展してきた歴史と伝統を踏まえつつ、その個性と強みを生かし、**世界レベルの先端研究を先鋭化**することで、大学全体の機能強化を主導し、次世代を担う研究領域を育むとともに、人材育成のパラダイムシフトを敢行し、**地域の問題をグローバルに考える人材育成を推進**する。平成28年熊本地震からの**創造的復興**を見据え、これらの教育・研究成果を積極的に地域に還元することで、これからの**地域創生の中核**となる“地域に根ざし、グローバルに展開する未来志向の研究拠点大学”を目指す。



【世界レベルの研究拠点の充実と先端的新分野の開拓による世界への挑戦】

本学の強みである生命科学及び自然科学の両領域において、**部局の壁を超えた研究者人事を可能とする「国際先端研究機構」を設置**することで、国内外の優れた人材を結集し、**国際共同研究及び融合研究を推進**するとともに、先端研究を組織的に展開できるリーダー人材の育成に取り組む。これにより、本学が世界と伍する諸研究を更に進展させ、世界をリードしていく新たな研究分野を創出し、その成果を世界に発信する。



【旧制五高以来の剛毅木訥の気風を受け継ぎ、“Global Thinking and Local Action”できる人材育成】

従来の受動的教育から能動的教育へと教育の質的転換を断行するとともに、高校までに培った学力の3要素を**多角的・総合的に評価する入学者選抜方法を導入**し、**入口から出口までの質保証システムを、大学教育統括管理運営機構を中心に構築**することで、柔軟な思考力と確かな専門力に加え、多様な価値観や社会規範を受け入れ、**グローバル化・多極化する社会で果敢に行動できる人材**（“Global Thinking and Local Action”できる人材）を育成する。



【熊本大学の“特色”を活かし、多様な豊かさを有する熊本の維持・発展に貢献】

地域ニーズと本学の特色ある知的・人的資源(シーズ)のマッチングを一層推進するため、「熊本創生推進機構」等の学内組織を整備し、**産業振興・人材育成・雇用創出、豊富な地下水資源を取り巻く安全・安心な地域づくり、地域社会の歴史文化の承継と発展、都市部から限界集落のニーズに応じた教育機会の提供等**に取り組むことで、**熊本地域の経済/自然環境/歴史文化/知識基盤等の維持・発展に貢献**する。

機能強化を促進するためのPDCAサイクル

【VISION】「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学 ～「創造する森 挑戦する炎」～

【plan】①世界レベルの研究拠点の充実と先端的新分野の開拓による世界への挑戦

【do】

新たな強み特色の形成

- ✓ 新たな研究領域を形成
- ✓ ヒトレトロウイルス克服を目指した研究・教育拠点の創設
- ✓ ナノマテリアル科学技術の世界的研究拠点形成

強み特色ある研究分野の伸長

- ✓ 発生医学の共同研究拠点
- ✓ エイズ学の国際共同研究の推進
- ✓ ヒト疾患リソースの世界ハブ拠点化
- ✓ KUMADAIマグネシウム研究の体系化
- ✓ パルスパワーの国際共同研究の推進

強み特色の先鋭化とグローバル展開

- 国際先端研究機構の設置
- ✓ 国際先端医学研究機構 (H27年度)
- ✓ 国際先端科学技術研究機構 (H28年度)

- ✓ 研究設備の集約化と共有化の推進

【check】

- ✓ 本学の強み・特色ある研究分野が目指す大学の研究実績
- ✓ 国際レベルの人材育成や人材の流動性向上に係る成果
- ✓ 研究成果の社会への還元状況

【action】

【plan】②旧制五高以来の剛毅木訥の気風を受け継ぎ、“Global Thinking and Local Action”できる人材育成

【do】

入口ー出口まで一貫した教育の質保証

- 大学教育統括管理運営機構 (H28年度)
- ✓ 教学IRに基づく教育のPDCAサイクルの確立
 - ✓ カリキュラムポリシーに基づく教育プログラムの構築
 - ✓ 入試改革の着実な推進
 - ✓ 就職支援及びキャリア教育の強化

学修段階に応じた“Global Thinking and Local Action”人材の育成

- 大学院
- ✓ HIGOプログラム (リーディング大学院) の成果を全学展開
 - ✓ グローバルな視点で地域課題が解決できる高度専門職業人の育成
 - ✓ グローバル (Global+Local) 人材を育成する全学共通大学院教育システムの構築
- 学士課程
- ✓ 受験学力の評価から多様な評価尺度を活用する新たな入試の実施
 - ✓ グローバル化時代に地域社会を牽引できる人材育成
- 共通
- ✓ データサイエンスに対するリテラシーを備え数理的試行力を持って行動できる人材の育成

【check】

- ✓ 入学予定者の英語教材による事前学習の実施状況
- ✓ 国際感覚修得者数
- ✓ 学生に対する就職先からの評価
- ✓ 人材育成に係る成果

【action】

【plan】③熊本大学の“特色”を活かし、多様な豊かさを有する熊本の維持・発展に貢献

【do】

- ✓ 熊本創生推進機構 (H29年度) と地域の関係機関が協働し、産業振興・人材育成や雇用創出等を推進
- ✓ くまもと水循環・減災研究教育センター (H29年度) による豊富な地下水資源を取り巻く安全・安心な地域づくりの推進
- ✓ 永青文庫研究センター (H29年度) による歴史資料研究の推進による歴史文化の価値創造
- ✓ 国際人文社会科学研究機構 (R2年度予定) による人文社会科学の地域研究分野の強化と成果の国際的発信
- ✓ 教授システム学研究センター (H29年度) が推進するeラーニングによる生涯学習教育の拠点形成

多様な就業機会の創出

安全・安心で魅力ある地域社会の形成

生涯学習の推進

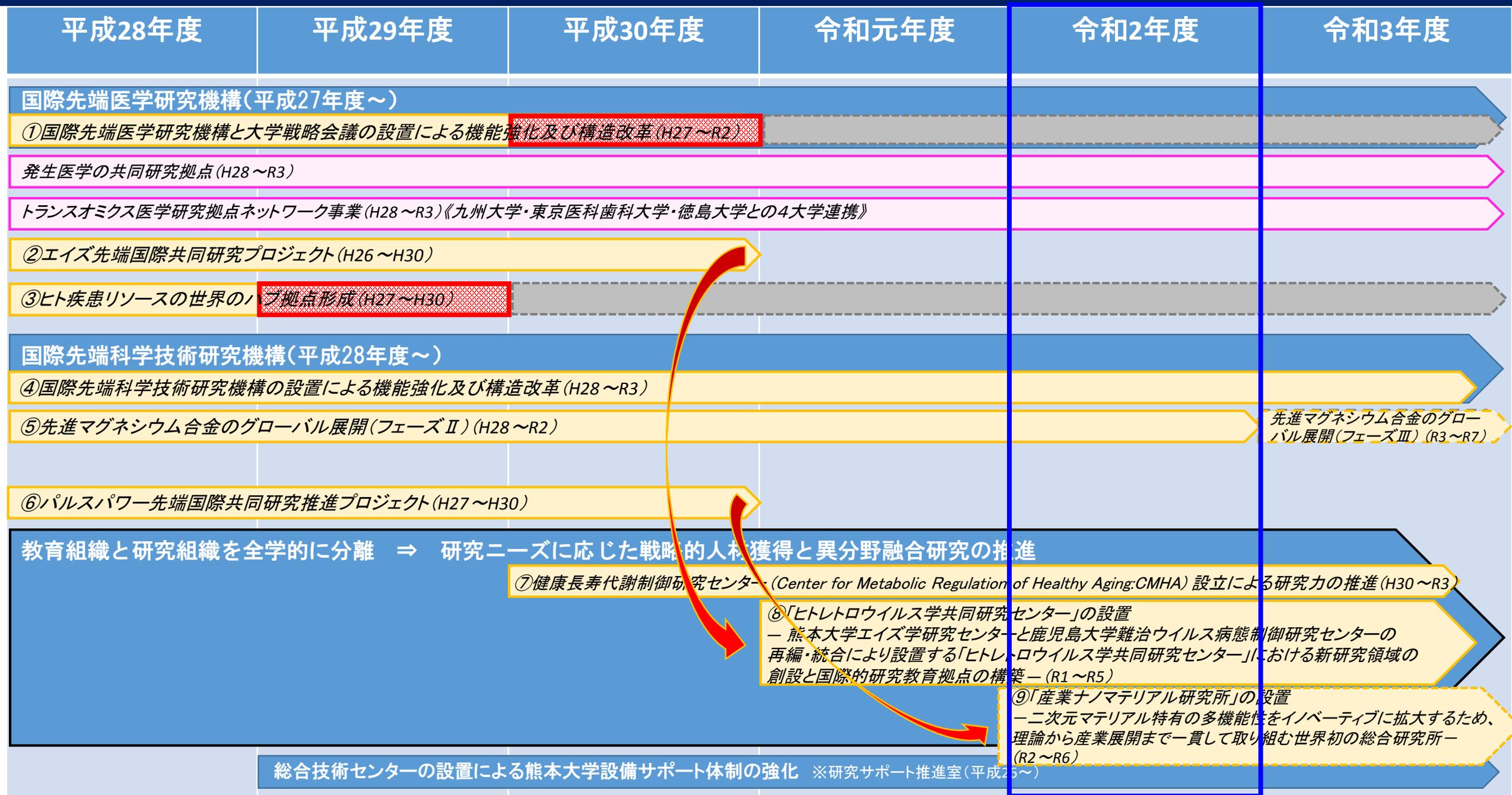
豊かな「くまもと」の維持・発展
⇒ 熊本地震からの早期復旧

【check】

- ✓ 環境保全や防災に関する論文・シンポジウムの数
- ✓ 歴史文化の研究推進と成果の情報発信
- ✓ 地域ニーズに対応した教育プログラムの履修者数
- ✓ 県内の地域企業等との共同研究・受託研究数

【action】

【戦略1】 世界レベルの研究拠点の充実と先端的新分野の開拓による世界への挑戦



【戦略2】 旧制五高校以来の剛毅木訥の気風を受け継ぎ、“Global Thinking and Local Action”できる人材育成

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
--------	--------	--------	-------	-------	-------

①大学教育統括管理運営機構（平成28年度～）
※社会ニーズを的確にとらえた修得能力の明確化と入学者選抜における多面的評価を実施し、入口ー出口まで一貫した教育の企画・評価・改善を実施

②グローバル教育カレッジが牽引する熊大発高大接続モデルの構築（入試改革、教育の質的転換を一体的に推進）(H28～R2)

⑤入試及び地域活性化に直結する就職支援並びにキャリア教育の強化 (R1～R5)

⑥大学教育統括管理運営機構附属数理科学総合教育センターを拠点とした数理・データサイエンス教育の実施及び地域における数理科学教育の推進 (R2～R6)

29年度入試～

- ・早期募集による才能の発掘（願書受付9/1～）
- ・育成能力に必要な高校卒業時までに修得すべき能力の明示
- ・アドミッション・オフィサーによる丁寧な選抜（適応能力、創造的思考力、クリティカルシンキング、学習意欲等の評価）
- ・センター試験の資格試験的利用 等

大学入学共通テスト導入に合わせ、グローバル教育カレッジが牽引した改革の全学展開

全学横断教育プログラム(グローバル教育カレッジを活用したLate Specialization) ※各学部の定員5%程度(医学部についても検討中)

- ・熊大Advanced Placementによる高校時の大学授業の単位化
- ・アクティブラーニングを多用したクリティカルシンキングの育成
- ・国際性を涵養するための外国語による授業の積極的導入
- ・2年次修了時点での専門分野の選択(選抜時、1年次修了時点での専門分野と学生の進路のマッチング)
- ・グローバル教育カレッジの学修内容に沿ったオーダーメイド型の専門教育 等

グローバル教育カレッジの成果の全学展開

③グローバルものづくり実践力の協働教育事業 (H27～H30)

育成能力の明確化に基づき、学部から大学院まで全学的に組織を見直し

- ④HIGOプログラムの他分野への積極的展開
- ⑤卓越した研究領域における博士課程教育の実質化

④グローバル(Global+Local)人材を育成する全学的な共通大学院教育システムの構築 (R1～R5)

教育組織と研究組織を全学的に分離 ⇒ 革新的研究成果に基づく新たな学問の教授や社会ニーズに対応する教育プログラム構築の迅速化



平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①くまもと地方産業創生センター(H27~)	熊本創生推進機構(平成29年度~) ※既設の機構、センターの抜本的な見直しと学内資源の大胆な再配置によるCOC機能の強化				
		①地方創生を強力に推進する熊本創生推進機構の機能強化(H30~R4)			
	くまもと水循環・減災研究教育センター(平成29年度~)				
	②水循環を核とした資源・自然災害を対象とする教育研究機能の強化(H29~R3)				
有明海・八代海の干潟・浅海域の生物との実体験を通して学ぶ教育拠点事業(H26~H29)	有明海・八代海・天草諸島の生物と化石の実体験を通して学ぶ教育拠点(H30~R4)				
③有明海・八代海の自然環境の再生・創生を目的とする総合的・実践的研究(H28~R2)					
	熊本藩筆頭家老松井家文書の保存・活用・公開のための修復・電子化事業(H30~R2)				
	永青文庫研究センター(平成29年度~)				
	④熊本藩大名家資料群の総合的分析による日本近世史研究拠点・歴史文化情報発信拠点の形成(H29~R3)				
	教授システム学研究センター(平成29年度~) ⇒ eラーニングを活用した社会人再教育プログラムの提供				
⑤教授システム学(Instructional Systems)の研究普及拠点の形成(H26~H28)	⑤教授システム学(Instructional Systems)の研究普及拠点の形成(フェーズII)(H29~R1)				
	教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点(H30~R2)				
	⑥国際人文社会科学研究機構の設置による国際的発信の強化(R2~R6)				